

2019 年行事予定

- 11月11日(土) 臨床検査の日
全国検査と健康展
(10月～12月)
- 11月21日(木) 第66回日本臨床検査医
～24日(日) 学会学術集会(岡山コン
ベンションセンター)
- 11月21日(木) 第2回全国幹事会・
第55回日本臨床検査専
門医会総会・講演会
- 12月21日(土) 第3回常任幹事会(新旧
合同・日本臨床検査医学
会事務局)

巻 頭 言

第66回日本臨床検査医学会学術集会・会長
川崎医科大学検査診断学・川崎医療福祉大学臨床検査学科
通山 薫

第66回日本臨床検査医学会学術集会開催にあたって

臨床検査専門医会の皆さまにおかれましては、日々ご活躍のことと拝察いたします。このたび第66回日本臨床検査医学会学術集会を担当させていただくことになりましたので、ここにご挨拶申し上げます。

本学術集会が岡山で開催されるのは3回目です。8年前と比較的最近、第58回学術集会が岡山大学・小出典男教授のもとで開かれました。さらに遡ること今から41年前、第25回学術集会が川崎医科大学・柴田 進先生を会長として開催されました。

川崎医科大学の臨床検査医学(検査診断学)教室・附属病院中央検査部は、当時山口大学から川崎へ招聘された柴田先生によって設立されました。その後柴田先生の門下生の方々が西日本中心に臨床検査医学を推進してこられました。私は川崎医大へ赴任して17年になります。着任した年に大阪で開かれた第49回学術集会(会長は大阪医大・清水 章教授)の懇親会に参加した折に、ボサボサ白髪頭の老師らしき御仁が近づいてこられ、いきなり話しかけられました。「今度川崎医大にきた若造というのはお前のことか?」と。これが高知大学・佐々木匡秀先生(第45回学術集会をご担当)に初めてお会いした瞬間でした。あまりに唐突かつ鮮烈だったので、今でもよく憶えています。

さて、今回の学術集会ではいくつかの新たな企画やユニークな試みを準備しております。特別講演はiPS細胞の臨床応用の先陣を切っておられる理研・高橋政代先生にご依頼することになりました。シリーズ特別企画第2回「臨床検査に何を求めるかー各科スペシャリストからの提言」では、同僚の川崎医大教授で現在日本腎臓学会理事長の柏原直樹教授に、腎疾患をテーマにした鼎談形式での講演をお願いしてあります。さらに日本医学会連合連携フォーラム共催事業として、日本病理学会との共催シンポジウムがこのたび初めて実現するはこびとなりました。「ゲノム医療時代に向けてー病理部と臨床検査部の協調体制のあり方」というテーマで、時宜を得たディスカッションがなされることと期待しております。ぜひご注目ください。

学術集会の基盤は、一般演題が数多く発表されて、各会場で有意義な討論や意見交換が活発になされることにあります。今回は340題を超える一般演題をご登録いただきました。一部はポスター発表とさせていただいており、内容の精査や身近なディスカッションが可能かと思えます。それから学生さんは自由参加ですので、学生主体で行うReversed CPCへの参加はもちろんのこと、臨床検査医学や本学会に馴染んでいただく絶好の機会としていただければありがたいです。

この時期は後楽園の紅葉が絶景で、しかも学術集会期間がライトアップ「秋の幻想庭園」の最終週となります。ぜひ学術集会とともに岡山の晩秋を楽しんでいただければ幸いです。皆さまのご来岡をお待ちしております。

【目次】

- p.1 巻頭言：第66回日本臨床検査医学会学術集会開催にあたって
- p.2 事務局からのお知らせ、第36回臨床検査専門医認定試験結果、会長・監事選挙結果、第88回教育セミナー報告、第29回春季大会(広島)報告、第54回日本臨床検査専門医会総会報告
- p.3 第36回臨床検査振興セミナー報告、全国検査と健康展ご協力のお願い、第55回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ、第66回日本臨床検査医学会学術集会(岡山)関連行事、2019年度予算、2019年度予算とホームページ移設に伴う補正予算
- p.4 2019年度行事予定、2020年度第30回春季大会のお知らせ、臨床検査振興協議会LINEスタンプのご案内、2019年度会費振込のお願い、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、医学部における臨床検査医学教育の実態調査のまとめ～その2～
- p.5 表1、表2、表3、表4
- p.6 京都RCPC challengeのご報告
- p.7 会員の声：いろいろな医師のカタチがあってもよい、とやっと思えるようになってきました、臨床検査専門医という資格と実臨床への応用
- p.8 会員の声：臨床検査専門医として、編集後記

ログインされましたか?
臨床検査専門医会ネットワーク

会員専用のQ&Aコーナーなどがあります。
IDやパスワードがわからない場合は、
事務局までお問い合わせください。
TEL: 03-3864-0804
E-mail: senmon-i@jaclap.org

HPアドレス (QRコードも対応)
<http://www.jaclap.org/qa/login>



【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2019 年 10 月 16 日現在数 799 名、専門医 654 名

【新入会員】（敬称略）

白上 洋平：岐阜大学大学院医学系研究科 病態情報解析医学
田辺 正樹：三重大学医学部附属病院 感染制御部
國崎 祐哉：九州大学病院 遺伝子細胞療法部
渡邊 卓哉：聖隷浜松病院 臨床検査科／総合診療科
久保田 寧：佐賀大学医学部附属病院 内科
中野 正祥：兵庫医科大学 臨床検査科
川口 憲治：東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座
東 貞行：鹿児島大学病院 臨床検査医学講座
倉田 芙美：倉田クリニック
大谷 恭子：産業医科大学病院 臨床検査・輸血部
西田留梨子：九州大学病院 検査部
山本 利枝：広島県立広島病院
矢島 周平：浜松医療センター臨床検査科

【所属・その他変更】（敬称略）

庄司 優：旧 明治薬科大学薬効学教室
新 医療法人財団あおば会 介護老人保健施設
ハート五橋 理事長兼施設長
藤原 亨：旧 東北大学病院血液免疫科
新 東北大学病院 検査部 講師・副部长
幸村 近：旧 北海道医療大学 新学部設置準備室
新 北海道医療大学 医療技術学部(学部長・教授)
松熊 晋：旧 自衛隊中央病院保健管理センター
新 防衛医科大学校 臨床検査医学講座 教授・
防衛医大病院検査部長
上原 由紀：旧 順天堂大学医学部感染制御科学／総合診療科
新 聖路加国際病院 臨床検査科部長／感染症科
杉山 大典：旧 慶應義塾大学 医学部衛生学公衆衛生学
新 慶應義塾大学 看護医療学部 教授
辻本 正彦：旧 大阪警察病院 病理診断科
新 第二大阪警察病院 病理診断科
大神 英一：旧 唐津東松浦医師会医療センター
新 医療法人愛光会 原田病院
生田 克哉：旧 旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学分野
新 北海道赤十字血液センター
福留 寿生：旧 三重大学医学部附属病院がんセンター 病理部
新 三重県立総合医療センター 病理診断科 部長
藤岡 和美：旧 日本大学医学部病態病理学系臨床検査医学分野
新 医療法人社団杏幸会藤岡皮フ科クリニック
奈良 誠人：旧 群馬大学医学部附属病院感染制御部
新 育英大学教育学部教育学科スポーツ教育専攻
茂久田 翔：旧 スクリプス研究所(米国)
新 広島大学病院 リウマチ・膠原病科
村上 俊一：旧 獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科
新 東葛病院 病理診断科
山口 勇人：旧 昭和大学横浜市北部病院 臨床検査科
新 さがみりハビリテーション病院 内科

【退会会員】（敬称略）

松村 敬久：高知大学医学部 病態情報診断学
金光 敬二：福島県立医科大学 感染制御学講座
武田 京子：

松本 一仁：大館市立総合病院 臨床検査科
井田 隆夫：井田内科胃腸科医院
石原 法子：
須川 秀夫：医療法人社団須川医院 須川クリニック
岩谷 良則：大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情
報科学講座

【訃報】

米満 博 先生 2018 年 11 月 20 日 ご逝去
福井 巖 先生 ご逝去(2019 年 8 月にご家族より連絡)
ご冥福をお祈り申し上げます。

【第 36 回臨床検査専門医認定試験結果】

2019 年 8 月 3 日(土)・4 日(日)に、日本臨床検査医学会主催の第 36 回臨床検査専門医認定試験が帝京大学医学部で行われ、30 名(うち日本臨床検査専門医会会員 23 名)が合格いたしました。合格おめでとうございます。今後のご活躍を期待します。(50 音順 / 敬称略)

今村美菜子、岩谷 舞、梅北 邦彦、海老名俊明、
大竹 志門、大谷 恭子、沖津 庸子、小林 翔太、
紺野 啓、嵯峨 知生、佐藤 雅哉、清水 博之、
白上 洋平、杉原 匡美、鈴木 広道、高澤 徳彦、
高橋 聡、高橋 宏通、高山 亜美、田中 信悟、
田辺 正樹、永妻 晶子、中前 博久、中山 享之、
西田留梨子、福島 裕子、法正 恵子、松本 剛、
三原圭一朗、山谷 琴子

【会長・監事選挙結果】

2020 年・2021 年度会長・2020 年～2023 年度監事の選挙は以下の結果となりました。

1. 会長選挙結果

投票総数：294 票、有効投票数：293 票、無効投票数：1 票
1 位：岩谷 直人 198 票(68%)
2 位：古川 泰司 92 票
白票：3 票

2. 監事選挙結果

投票総数：291 票、有効投票数：291 票、無効投票数：0 票
1 位：古川 泰司 36 票
次点：登 勉 27 票
白票：17 票

【第 88 回教育セミナー報告】

2019 年度日本臨床検査専門医会第 88 回教育セミナーが、5 月 19 日(日)帝京大学霞が関キャンパスで開催されました。本年度は 53 名の参加がありました。

【第 29 回春季大会(広島)報告】

2019 年度第 29 回日本臨床検査専門医会春季大会(横崎典哉会長)が 5 月 30 日、6 月 1 日に広島県医師会館を会場に開催されました。臨床検査領域講習、指導医講習等臨床検査専門医の更新に必要な講習が企画され、両日併せて 200 名余りの会員の参加がありました。春季大会にあわせて生涯教育講演会も開催され、感染対策と医療倫理分野の共通講習の講演がありました。

【第 54 回日本臨床検査専門医会総会報告】

第 54 回日本臨床検査専門医会総会は 2019 年 6 月 1 日広島県医師会館にて開催されました。

<審議事項>

第一号議案：平成30年度決算案について(別表1)

第二号議案：2019年度補正予算案について(別表2)

第一号～第二号議案は承認されました。

<報告事項>

1. 各種委員会等報告
2. 全国検査と健康展
3. 2020年度第30回春季大会について
4. 2019年度会長・監事選挙について
5. 2019年度行事予定について

【第36回臨床検査振興セミナー報告】

第36回臨床検査振興セミナーは、7月19日(金)に東京ガーデンパレスで開催されました。前半は「丸くおさめるビジネス交渉術」をテーマに、三谷 淳氏(未来創造弁護士法人代表弁護士)にご講演いただきました。後半は「医療法の一部改正について」をメインテーマに、横崎 典哉氏(広島大学病院検査部長)、金村 茂氏(日本衛生検査所協会参与)、横田 浩充氏(東邦大学理学部教育開発センター教授)の3氏にご講演いただきました。80名を超える参加があり盛会裏に終了しました。

【全国検査と健康展ご協力のお願い】

本年も日本臨床衛生検査技師会との共催で、10月13日より12月14日まで、全国19会場で開催予定です。各会場へのご協力よろしくお願いいたします。ご協力いただいた先生方には参加証明書をお渡しします(臨床検査専門医更新基準での更新単位1単位となります)。

【第55回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ】

第55回日本臨床検査専門医会総会・講演会は第66回日本臨床検査医学会学術集会(岡山)時に以下の日程で開催予定です。

開催日時：2019年11月21日(木)

総会 13:30～14:00

講演会 14:00～15:00

「臨床検査医学教育の現状と臨床検査専門医の将来」

演者：登 勉(日本臨床検査専門医会 会長)

※本講演は臨床検査領域講習(指導医講習)1単位に認定されています。

【第66回日本臨床検査医学会学術集会(岡山)関連行事】

第66回日本臨床検査医学会学術集会は2019年11月21日(木)～24日(日)に岡山コンベンションセンターで開催されます。本会では以下の共催行事(日本臨床検査医学会教育委員会・ワークライフバランス委員会との共催)を予定しています。

<共催シンポジウム>

日 時：11月23日(土)14:25～16:25

「他の領域から検査に移って 専門性を活かした新たな挑戦ー検査医学への貢献、検査医学に欠けているもの、望むものー」
司会：山崎 正晴(奈良県立医科大学附属病院 中央臨床検査部)
米川 修(聖隷浜松病院 臨床検査科)

シンポジスト

- 横崎 典哉(広島大学 検査部)
涌井 昌俊(慶應義塾大学 臨床検査医学)
石井 潤一(藤田医科大学 臨床検査科)
木村 秀樹(福井大学医学部附属病院 検査部)

検査領域からの発言

細川 直登(亀田総合病院)

(別表1)

平成30年度決算

		項 目	平成30年度予算額	平成30年度決算額	予算と決算の差	
収入欄	会費	会員会費	6,535,000	6,010,000	-525,000	
		賛助会員会費・寄付金	3,700,000	3,500,000	-200,000	
		小 計	10,235,000	9,510,000	-725,000	
	その他入金	広告収入	400,000	250,743	-149,257	
		教育セミナー参加費	400,000	440,000	40,000	
		生涯教育講演会参加費	150,000	216,000	66,000	
		振興セミナー参加費	100,000	54,000	-46,000	
		利息	3,000	865	-2,135	
	小 計		1,053,000	961,608	-91,392	
	入金合計		11,288,000	10,471,608	-816,392	
支出欄	庶務経費	事務所維持費	1,700,000	1,733,736	-33,736	
		人件費	1,650,000	1,535,650	114,350	
		設備費	50,000	27,664	22,336	
		電話・FAX使用料	60,000	53,992	6,008	
		通信費(事務局)	170,000	151,851	18,149	
		事務局雑費	150,000	141,402	8,598	
	小 計		3,780,000	3,644,295	135,705	
	事業経費	印刷代	2,000,000	1,282,846	717,154	
		要覧印刷代	500,000	500,000	0	
		通信費	800,000	435,623	364,377	
		春季大会補助金	500,000	500,000	0	
		臨床検査振興セミナー費	850,000	850,306	-306	
		教育セミナー費	650,000	677,463	-27,463	
		会議費	1,000,000	876,613	123,387	
		交通費	100,000	27,840	72,160	
		宿泊費	30,000	13,148	16,852	
		原稿料	50,000	0	50,000	
		専門医ネットワーク維持費	100,000	100,000	0	
		HP維持費	170,000	142,659	27,341	
		広報活動費(委員会HP)	50,000	27,000	23,000	
		JCCLS会費	50,000	50,000	0	
		WASPALM会費	55,000	0	55,000	
		臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0	
		内保連	200,000	200,000	0	
		予備費	103,000	0	103,000	
		小 計		7,508,000	5,983,498	1,524,502
		出 金 合 計		11,288,000	9,627,793	1,660,207
収 支 決 算		0	843,815	843,815		
前年度繰越金+定期預金			29,116,855			
次年度繰越金+定期預金			29,960,670			

(別表2) 2019年度ホームページ移設に伴う補正予算

		項 目	2018年度予算	2019年度予算 (原稿)	2019年度補正予算
収 入 欄	入金	会員会費	6,535,000	6,575,000	6,575,000
		賛助会員会費・寄付金	3,700,000	3,500,000	3,500,000
		小 計	10,235,000	10,075,000	10,075,000
	その他	広告収入	400,000	200,000	200,000
		教育セミナー参加費	400,000	400,000	400,000
		生涯教育講演会参加費	150,000	200,000	200,000
		振興セミナー参加費	100,000	60,000	60,000
		利息	3,000	1,000	1,000
		小 計	1,053,000	861,000	861,000
		入 金 合 計	11,288,000	10,936,000	
支 出 欄	庶 務 経 費	事務所維持費	1,700,000	1,700,000	1,700,000
		人件費	1,650,000	1,750,000	1,750,000
		設備費	50,000	50,000	50,000
		電話・FAX使用料	60,000	60,000	60,000
		通信費(事務局)	170,000	170,000	170,000
		事務局雑費	150,000	150,000	150,000
		小 計	3,780,000	3,880,000	3,880,000
	事 業 経 費	印刷代	2,000,000	2,000,000	2,000,000
		費裏印刷代	500,000	0	0
		通信費	800,000	800,000	800,000
		春季大会補助金	500,000	500,000	500,000
		臨床検査振興セミナー費	850,000	850,000	850,000
		教育セミナー費	650,000	650,000	650,000
		会議費	1,000,000	1,000,000	1,000,000
		交通費	100,000	100,000	100,000
		宿泊費	30,000	30,000	30,000
		原稿料	50,000	50,000	50,000
		専門医ホームページ開発費	0	0	1,738,000
		専門医ネットワーク移設費用	0	0	91,800
		専門医ネットワーク維持費	100,000	100,000	100,000
		HP維持費	170,000	170,000	170,000
		広報活動費(委員会HP)	50,000	50,000	50,000
		JCCLS会費	50,000	50,000	50,000
		WASPALM会費	55,000	55,000	55,000
		臨床検査振興協議会	300,000	300,000	300,000
		内保連	200,000	200,000	200,000
		予備費	103,000	151,000	151,000
		小 計	7,508,000	7,056,000	8,885,800
			出 金 合 計	11,288,000	10,936,000
収 支 決 算		0	0	-1,829,800	

<共催ワークショップ>

11月24日午前に医学生～研修医対象のRCPC、ポスター展示と、臨床検査専攻、転科を考慮している医学生・医師達への情報提供ができる内容を企画しています。

【2019年度行事予定】

本年度の行事予定についてお知らせします。

- 11月11日(土) 臨床検査の日
全国検査と健康展(10月～12月)
- 11月21日(木)～
24日(日) 第66回日本臨床検査医学会学術集会
(岡山コンベンションセンター)
- 11月21日(木) 第2回全国幹事会・第55回日本臨床検査専門医会総会・講演会
- 12月21日(土) 第3回常任幹事会(新旧合同・日本臨床検査医学会事務局)

【2020年度第30回春季大会のお知らせ】

大会長：橋口 照人教授(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 血管代謝病態解析学)

期 日：2020年5月15日(金)～16日(土)

会 場：TKP ガーデンシティ 鹿児島中央

【臨床検査振興協議会 LINE スタンプのご案内】

このほど臨床検査振興協議会において、マスコットキャラクター「りんしょう犬さん」のLINEスタンプを作成、LINEストアに登録をしました。スタンプは40種類、インフルエンザテストやサナダムシ風のものなど臨床検査に従事している方が見ると喜んでもらえるデザインにしましたので、技師さんとの会話のきっかけにご使用いただければ幸いです。宜しく願い申し上げます。(広報 五十嵐)



LINEストアクリエイターズスタンプ
りんしょう犬さんで検索！



<https://store.line.me/stickershop/product/8679516/ja>

【2019年度会費振込のお願い】

本年3月に2019年度の会費振込用紙をお送りしました。お納めいただいていない会員の方は振込をお願い致します。尚、未納分のある会員の方々は合計額の振込をお願いします(納入状況は振込用紙に記載してあります)。

2019年度年会費：10,000円(2019年1月1日現在、70歳以上の方は5,000円)

銀行名：ゆうちょ銀行
金融機関コード：9900
店番：019 店名：〇一九店(ゼロイチキウウ店)
預金種目：当座 口座番号：0020509
口座名：日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局までE-mailまたはFAXでお問い合わせください。

過去2年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承ください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にとまって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所およびE-mail address等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAXあるいはE-mailでお送りください。

また、日本臨床検査専門医会ネットワークシステムでは会員情報を各自で編集可能ですが、変更した旨を事務局までメールでご連絡ください。

<連絡先>日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

TEL 03-3864-0804 Fax 03-5823-4110

E-mail: senmon-i@jaclp.org

【医学部における臨床検査医学教育の実態調査のまとめ ～その2～】

登 勉

前号では、わが国の医学部における臨床検査医学教育の実態を調査し、現状を把握することから本アンケート調査を行うまでの流れを記載した。今号よりアンケート結果を項目別に提示していく。

□ アンケート内容

アンケート調査は表1に示す5つの項目について実施した。アンケート調査対象校数は、国立42校、公立8校、私立他32校、計82校である。私立他は新設の私立2校と防衛医科大学校を含む。アンケート回答数及び回答率は、国立が42校中33校で回答率78.6%、公立が8校中7校で87.5%、私立他が32校中26校で81.3%、総計は82校中66校で80.5%であった(表2)。なお、アンケート集計結果は2017年6月時点での実態を反映したものである。

□ 教育体制について ～教授ポストに関して～

教育体制については、臨床検査医学講座の現状、教授ポスト、教員数、常勤職員数、講座に在籍する医師の専門性の各項目についてまとめた。表3に臨床検査医学講座の現状を示したが、回答のあった国立33校のうち、20校には医学部又は大学院に臨床検査医学講座があり、残り13校では病院検査部(+輸血部)(以下、検査部)6校、臨床検査医学と他の専門分野の併設(以下、臨床検査医学+他分野)3校、他の専門分野の講座(以下、他分野)4校となっていた。

国立の約3分の1では、臨床検査医学講座から検査部や他の専門分野に改編されていた。回答のあった公立7校のうち、臨床検査医学講座は1校のみで、他は検査部3校、臨床検査+他分野2校、他分野1校であった。私立の場合、回答のあった26校中18校では臨床検査医学講座があり、検査部4校、臨床検査+他分野1校、他分野2校であった。

教授ポストについてみると(表4)、国立と公立では組織の改編に伴って教授ポストが無くなっていた。国立では教授ポスト無しが5校あり、全て検査部であった。公立では、検査部1校と臨床検査+他分野1校で教授ポストが無かった。今回の調査では、消えた教授ポストがどのように使われているかを尋ねる質問項目はないが、臨床検査医学講座を廃止して検査部のみにし、同時に教授ポストは他の診療部門や専門分野のために使うという医学部あるいは大学の意図が想像できる。

次号では、助教から準教授のポストに関して、提示を行っていく。

表 1 アンケート内容

1. 教育体制について
2. すべての医学生に行う講義(系統講義、ユニット講義など)
 - 2-1 講義時間とコマ数
 - 2-2 講義の内容
3. すべての医学生に行う臨床実習 (clinical clerkship、ポリクリなど)
 - 3-1 実習時間
 - 3-2 実習の内容
4. すべての医学生ではなく選択で行う実習
5. 市中病院(大学以外において)臨床検査医学の講義・実習について

表 2 アンケート回答数及び回答率

国公私別の別	アンケート 対象校数	回答数	回答率
国立	42	33	78.6
公立	8	7	87.5
私立他	32	26	81.3
総計	82	66	80.5

表 3 臨床検査医学講座の現状

	国立	公立	私立
医学部又は大学院講座	20	1	18
病院検査部(+輸血部)	6	3	4
臨床検査医学+他の専門分野	3	2	1
他の専門分野のみ	4	1	2
その他			1

表 4 教授ポスト

		国立	公立	私立
あり		28	5	26
内 訳	医学部又は大学院講座	20	1	18
	病院検査部(+輸血部)	1	2	4
	臨床検査+他の専門分野	3	1	1
	他の専門分野のみ	4	1	2
	その他			1
なし		5 (診療教授1)	2 (病院教授1)	0

【京都 RCPC challenge のご報告】

五十嵐 岳

本年 6/22、専門医会よりバックアップいただきまして医学生～研修医を対象とした“RCPC challenge”を京都府立医科大学にて開催させていただきました。簡単にではありますが、以下に開催報告をお送りさせていただきます。

経緯としては、自分が関東医学部勉強サークル“KeMA”に参加、同会に参加していた関西医学部勉強サークル“Team 関西”代表の岡くんと知り合いになったことが全ての始まりになります。岡くんとは「臨床検査医学会、専門医会と合同で勉強会が開催できれば良いよね」とお話ししていたのですが、その時点で彼は 6 年生であったため、次期代表の京都府立医科大学 5 年生(当時)の稲葉くんを御紹介いただきました。これは本当に偶然だったのですが、稲葉くんのお父様は京都府立医科大学 分子病態検査医学/感染制御・検査医学教室ご所属、臨床検査専門医の稲葉亨先生でした。そのような巡り合わせもあり、昨年末、振興協議会広報委員会会議で京都訪問時に稲葉くんと夕食を共にし、“RCPC challenge”を開催してみようという話しが前進、2 月常任幹事会にて諸先生方に御承諾いただき、今回開催させていただいた次第です。

当日は 36 名が参加(男女比 57:43、医学部 4 年生 5.4%、5 年生 29.7%、6 年生 37.8%、医師 1 年目 2.7%、医師 2 年目 13.5%、医師 3 年目以上 8.1%)、うち医学部 5-6 年生が約 60% を占めました。それぞれの所属は京都府立医科大学、京都大学医学部、大阪医科大学、滋賀医科大学、京都山城総合医療センター、愛知医科大学、和歌山紀南病院であり、うち京都府立医科大学と京都大学の学生が約 50% でした。

今回は 15 時からの 3 時間開催で RCPC 2 題を提示、1 題目は国家試験レベルの巨赤芽球性貧血とし、こちらが誘導する形で“RCPC とはどのように考えながら行ふべきか”を学んでいただきました。2 題目は 2017 京都学会 RCPC における HELLP 症候群を提示、参加者間でグループディスカッションを行っていただきました。学生さんに HELLP 症候群は難しいかな…とも予想しておりましたが、各グループにおける

ディスカッションは白熱、当初予定していた 30 分から 45 分に延長する事態になったほどです。結果、6 グループ中 3 グループが HELLP 症候群を疑うと解答してきたこと、終了後アンケートにおいても 80% の方が難易度適当と記載いただいていたことから適当な難易度であったと思われます。終了後、アンケートにおいて勉強会満足度調査も行いましたが、72% の参加者が“とても楽しかった”(5 段階にて質問)と御解答いただきました。懇談会に 12 名が参加してくれたこと、その後の 3 次会にも 4 名が参加してくれたこと、11 月岡山学会 RCPC に参加することを約束してくれた子が数名いたことから、今回の勉強会は成功、臨床検査専門医という存在を知っていただく良い機会になったと感じております。

個人的な感想としては“SNS による学生間ネットワークの強さ”を感じさせられた機会でした。というのも、自分がレジデントノートで執筆しているから参加してくれたというよりも、幹事の稲葉くんの声掛け、人脈による集客が功を奏していたと感じたからです。やはり時代は SNS 中心であり、“大学別だけではなく、学習意欲がある人間で動いている”グループがあります。そのような活動をしている医学生～研修医が臨床検査医学を専攻していただければと考えておりますので、今後もこのような形で広報活動を行っていく所存です。また、その活動の一環となりますが、第 66 回 日本臨床検査医学会学術集会の最終日(11/24)午前に今回のような RCPC challenge とポスターセッションで構成されたワークショップをワークライフバランス委員会主催で開催させていただきます。皆様の御施設で臨床検査に興味がある医学生～研修医の方がいらっしゃいましたら、本ワークショップに是非ご紹介いただければ幸いです。

参加登録フォーム URL : <https://jslm.movabletype.io/RCPC2019.html>

以上、簡単にではありますが、京都 RCPC challenge の開催報告とさせていただきます。なお、当日は広報委員 尾崎先生(2019 岡山学会ワークショップリーダー：和歌山紀南病院)、京都府立医科大学 臨床検査医学の稲葉 亨先生、御子息 哲志くん、松原 慎先生(御所鴨川カンファレンス：京都府立医科大学 総合診療内科)にご協力いただいたことを申し添えます。



RCPC 当日の様子

【会員の声】

いろいろな医師のカタチがあってもよい、 とやっと思えるようになってきました。

はじめまして。卒後9年目（あってますでしょうか？）の高橋千春と申します。この度は、執筆の機会を頂きありがとうございます。卒後3年目、7年目に出産し、現在わんぱく真っ盛りの男の子2人を子育て中です。1週間の4.5日を内科の病棟、外来業務、残りの半日を検査部で骨髄像の読影業務にあてています。学生時代から血液内科医の道を進むと決めていた私は、卒後3年目で、某総合病院の血液内科 後期研修医として順調に研修を開始し、できれば6年目で血液専門医、総合内科専門医をとりたい、と考えていました。しかし後期研修中に結婚、妊娠の時期が重なり、当初自分が思い描いていた臨床医としての道を修正することとなりました。当時は、周りに迷惑をかけている自分が嫌になり、医者を持続けられないのではないか、でも子供は生みたいし、と自分のことで精いっぱいでした。色々と考えている間もなく、つわりはひどく電車通勤もできず、毎日タクシー代がかさむし、吐いても吐いても気持ち悪いし、と心身ともにつらい日々でした。今思い返せば、あんなに多忙な病棟で一人医者が減ることは多大な迷惑をこうむるのだし、多少のマタハラは、受け入れざるを得なかったかな、と思います。当時勤務していた病院の優しい女性の先生からは、辞職する際に「子供ができると、モチベーションを保ちながら仕事を続けるのが大変になるけど、がんばってね。」とお言葉を頂きました。後期研修を1年で切り上げてしまった私は、これから何とか医者を持続ける道はないだろうか、と悩み、2年目に研修していた病院の先輩女性医師の小池由佳子先生（現虎ノ門病院検査部）に相談したところ、「増田先生に連絡してみるといいよ!」と教えて下さり、その当時東大病院検査部で仕事をされていた増田亜希子先生に相談することとなりました。増田先生から、検査部の矢富教授へと連絡して頂き、ちょうどつわりのピークが過ぎていた頃に大学院の試験を受験し、第一子出産1カ月後に大学院に入学しました。はっきり申し上げると、あまり臨床検査医学について知らなかったです（先生方すみません。）、何とか医者人生をつなぎたい、という思いでいっぱいでした。保育園をつなぎながら、何とか院生として勉強することができました。出来の悪い私を指導することとなった先生にはきっとただのお荷物でしかなかったでしょうし、早く卒業しなくては迷惑がかかる、と常に思っておりましたが、実験は好きで、動物実験も積極的に経験できてよかったです。論文投稿中に、第2子を出産し、出産後2週間で今度は追加実験を行うこととなりました。何度もリジェクトされ、最終的にアクセプトを頂けたのは、4年生の卒業論文提出とほとんど同じ時期でした。国際学会の発表を経験させて頂き、家族で参加できたのはとても良い思い出です。大学院卒業の後の進路も非常に悩みました。実験はとても好きでしたが、色々人間関係の悩みも大きかったですし、かつて志していた血液内科の分野に少しでも携われる、という意味で骨髄像の勉強をしたい、臨床検査の分野での勉強を少しの時間でもよいから続けよう、と決め、いくつかの病院の臨床検査部へ見学に伺いました。その中で、子育て中の女医さんが多く、皆さんが仲良く楽しく仕事を続けていた、順天堂大学の臨床検査医学講座への入局を決めました。教授の三井田先生は、子育て中の女性の先生方とも距離が近く、非常に理解がある先生でいらっしやることも魅力でした。検査一本での仕事継続にするか、とても悩みましたが、主人が精神科医でいずれ開業を考えていたこともあり、内科医として力になりたい、という

気持ち強く、2年目にお世話になった病院での内科医としての仕事を再開することとしました。子供の体調や用事で仕事に影響を及ぼすことはありますが、それでも私の周りの先生方、スタッフの皆さんに配慮して頂き、何とか楽しく続けられています。患者さんの中には、同じ子育て中のママもいたりして、そんなときにはちょっとした子育ての愚痴を言ったりして笑い飛ばすこともあります。「同じ経験をしたものにしか気持ちはわからない。」というシュブランガーの言葉のように、医師という1つの職業でも、生活リズムや何を優先するか、ということはそのヒトにしかわからない部分です。妊娠や出産を選ばない生き方も尊重されるべきだし、反対に子育てをしながら仕事をする、という生き方も間違っているとは思いません。男性医師も同様だと思います。来年度以降、主人の開業や子供の進学などまた状況は変化するタイミングになりますが、細く長く検査の勉強を続けたいと思います。

（医療法人大坪会 東都文京病院 内科 高橋千春）

臨床検査専門医という資格と実臨床への応用

平成30年度に臨床検査専門医の資格をいただきました東京大学医学部附属病院検査部の安本篤史と申します。私は2004年に北海道大学医学部を卒業し、2年間の初期研修を終えたあとに、1年間だけ地方の消化器内科・一般内科を学び、4年目から同大学血液内科に入局しました。白血病を始めとした血液腫瘍の臨床に携わる中で、ある症例との出会いが私の医者人生を変えました。それは初めて経験した血漿交換が無効な難治性血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）です。当時、ADAMTS13活性の測定も研究室レベルでしか行われておらず、リツキシマブでの治療も数例の症例報告しかない状況で、リツキシマブを投与して寛解が得られました。この経験から私は血栓止血学に興味を抱き、2008年、北海道大学大学院医学研究科医学専攻博士課程に入学後、血栓止血学の研究を行うため、自治医科大学分子病態研究部の坂田名誉教授のもとで基礎研究および臨床の研鑽を積みました。そのおかげで2013年に血友病の遺伝子治療に関する研究論文で学位を取得しました。その後、私は北海道で臨床の現場に戻ることになりましたが、この自治医大での出会いがきっかけで、2015年4月から現職の東京大学大学院医学系研究科臨床病態検査医学の特任助教としてお誘いいただき、2017年から同大病院検査部助教として矢富教授のもとで学ばせていただいております。

初めて臨床検査に関わることになり、2年間の初期研修とこの東大病院での3年間の研修をもって臨床検査専門医の取得を目指してきました。私の専門は血栓止血学であり、これまでの臨床経験から血液形態学にも一定レベル以上の知識はもっており、特に移植医療に長い間、関わってきたことから、微生物（主に日和見感染症）学や輸血学にも深い知識を持っています。臨床検査専門医の取得に向けた研修では、自分の専門領域を極めることが何より重要と考え、そこから他の分野へと波及させていきました。

私の東大病院での主な担当部署は、血栓止血部門と採血室ですが、そこから私が考える今後、臨床検査専門医として果たすべき役割の一つは、臨床医と検査室との橋渡しです。わたしも一人の臨床医として、臨床検査についての十分な知識がないときは、臨床検査室への無茶なお願いや雑な血液検体の提出を行っていたことを思い出します。「検査をオーダーする側からみた臨床検査」と「検査を行う（受ける）側からみた臨床検査」には大きな壁があり、その壁をまずは身近なところから取り払うように日々、動いております。臨床検査専門

医の役割はこれだけではないと思いますが、まずはできることから積極的に行動に移していこうと考えております。専門医の取得はスタートラインに立っただけですので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。
(東京大学医学部附属病院検査部 安本篤史)

臨床検査専門医として

みなさま、はじめまして。平成 30 年度から臨床検査専門医の仲間入りをさせていただきました日本大学の小倉彩世子と申します。私は 1999 年度に東京女子医大を卒業し、内科ローテイト(いまのような初期研修制度の前の制度)し循環器内科所属となり、卒後 4 年目 10 年目までを東京大学医学部腎臓内分泌内科で医員・大学院を過ごしました。もともと手技などより検査データをみて「あれ・これ」病態や患者さんの身体でおきている事を推測することが好きなことから内科を選択しました。病棟にいるときもどちらかというとベッドサイドよりは検査データを見て、カルテを書いている時間のほうが好きでした。

大学院での基礎研究生活に面白さを感じ、研究員として働きたいと考えるようになり大阪の国立循環器研究センター血管生理学で 2 年間は基礎研究メインの日々を過ごした後大学院時代の恩師である元東大医学部検査部講師の下澤先生(国際医療福祉大学検査学教授)から日本大学医学部の病理学系臨床検査医学分野の助手をご紹介いただきました。

まずは駿河台日本大学病院の臨床検査科の医員として、検査科長であった現在はけいゆう病院検査部長の土屋達行先生に検査の基礎ひとつひとつを丁寧に指導いただきました。土屋先生は検査室の一部にある管理室に常に居られ、血液像や骨髓標本の異常所見、血液培養の結果のラウンド、HIV の報告書、免疫電気泳動や細胞診の結果などを日々教えていただきました。感染症ラウンドなどにも頂き、感染症対策や検査室の運営など 3 年間の間に数多くの経験をさせていただきました。現在は日本大学医学部附属板橋病院の方に移動し、2014 年には結婚・2016 年には出産・育休を経て 2017 年に助教として復帰をいたしました。現在は 2 歳の息子の育児と仕事の両立に追われる日々ですが、研究の方も少しずつ再開をし始めております。

臨床検査医学は基礎医学と臨床医学を結ぶ掛け橋となる総合的な学問を研究し、種々の検査を通して診断や治療に役立つ検査結果と関連する情報を臨床医に提供するという理念のもとに、日々進化する新しい基礎研究と臨床とのパイプとしての役割ができるような検査医を目指していこうと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

(日本大学医学部 病理学系臨床検査医学分野 小倉彩世子)

【編集後記】

JACLaP NEWS 編集主幹を約 2 年間務めさせていただきましたが、本号をもって編集主幹を交代させていただくことにいたしました。ご多忙な中にも関わらず、巻頭言、会員の声のご執筆を快諾いただいた諸先生、毎号の事務局だよりをまとめてくださっている専門医会事務局 市川さま、編集作業を行ってくださった八木書店の方々、前編集主幹の増田先生、そして常に全体のバックアップいただいております情報出版委員会委員長の盛田先生、会長の登先生、三役のベ谷先生、佐藤先生、東田先生に大変感謝しております。誠にありがとうございました。

任期中に一番苦労した点は、やはり“ご執筆の依頼”ですね。お忙しい皆様の時間を削って、この日までに原稿のご執筆をお願いします…というのは、こちらとしてもなかなか心苦しいお願いで、毎回毎回ゴメンなさい!と思いながら、ご依頼をしておりました。また、皆様が楽しんで読んでいただけるような新企画を立ち上げたいな…とも考えておりましたが、いざ初めてみると現状企画を維持するのが精一杯で、新企画には手をつけられず。この点は今でも若干心残りです。

さて、次号からは九州大学病院 検査部の後藤 和人先生に編集主幹をお願いいたしました。自分と後藤先生は 2015 年に臨床検査専門医を取得した専門医同期となります。本件以外にも諸々お世話になっている先生ですが、微に入り細に入った仕事をしてくださる先生ですので、今後の JACLaP NEWS に良い風をもたらしてくれると期待しております。

拙い編集で申し訳ございませんでしたが、2 年間のお付き合い、誠にありがとうございました。今後とも JACLaP NEWS の御愛読をよろしくお願い申し上げます。

(編集主幹 聖マリアンナ医科大学 臨床検査医学講座 五十嵐 岳)

会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております!
テーマは自由、文字数も自由です。
是非ともご意見を寄せてください。

【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局
まで、メールにてお送りください。
E-mail: senmon-i@jaclp.org

日本臨床検査専門医会

会 長：登 勉、副会長：佐藤尚武、ベ谷直人(渉外委員会委員長、全国検査と健康展担当)

庶務・会計幹事：東田修二

常任幹事：五十嵐岳(広報委員会委員長)、東條尚子(資格審査・会則改定委員会委員長)、古川泰司(保険点数委員会委員長)、宮崎彩子(ネットワーク運営委員会委員長)、盛田俊介(情報・出版委員会委員長)、米川 修(教育研修委員会委員長)

監 事：佐守友博、土屋達行

全国幹事：浅井さとみ、伊藤弘康、植木重治、大澤春彦、木村秀樹、久川 聡、長井 篤、中村文彦、橋口照人、日高 洋、増田亜希子、松井啓隆、松下一之、藤井 聡、横崎典哉

情報・出版委員会：

委員長：盛田俊介

委 員：五十嵐岳、出居真由美、信岡祐彦、福地邦彦、吉田 博、後藤和人

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号
TEL: 03-3864-0804 FAX: 03-5823-4110 E-mail: senmon-i@jaclp.org